



本庁

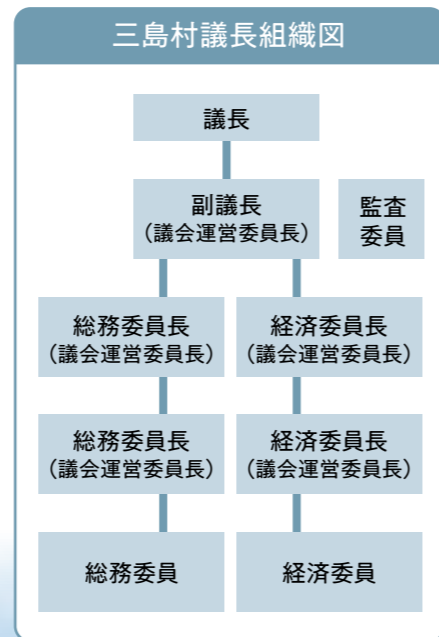


住民一人ひとりが主人公の村づくり

村議会は3つの島から選出された7名の議員で構成され、鹿児島市の議場で年4回の定例会と必要に応じて臨時会が開催されます。常設の委員会として、総務委員会及び経済委員会があります。議会で議決された事柄は、地域ごとに議員による報告の場を設け、住民一人ひとりの村政への参加意識を高めるよう努めています。

三島の特性を生かした村おこし

本村は、太平洋戦争後の暫定国境線の決定により、北緯30度線を境に十島村から分村しました。また行政が円滑に行われるよう、役場を鹿児島市に置いています。行政機関は、本庁が総務課、経済課、民生課、定住促進課、船舶課、会計室の6つの組織から構成され、村内3島の4地域に出張所を置いています。豊かな自然環境を生かした各種交流事業に趣向を凝らし、島の特性を生かした村おこしに村民と一丸となって取り組んでいます。



村長



副村長



教育長



議長



副議長

村章



赤は村民の燃える情熱を、緑は村の豊かな自然を象徴します。三の文字は力強く躍動する三つの島を、外円は限りない「和」を表したものです。

村民憲章

- 一、わたくしたち三島村民は心をひらき笑顔の村をつくります
- 二、わたくしたち三島村民は力を合わせ伸びゆく村をつくります
- 三、わたくしたち三島村民は仕事にはげみ豊かな村をつくります
- 四、わたくしたち三島村民は常に学び文化の村をつくります
- 五、わたくしたち三島村民はきまりを守り平和な村をつくります

村民歌

夢光る 作詞：田中順之祐 作曲：鎌田範政

一、
みどりの海に いだかれた
自然の恵みの 幸うけて
今日も希望の 陽を仰ぐ
好きです三島 ふるさと三島
椿とさつきと 文化と共に
人情咲き添う 花の村

二、
三つの島に わかれても
心は一つに なごやかに
笑顔かわして 手を結ぶ
好きです三島 ふるさと三島
青空めざして 孔雀も翔ける
みんなが仲間の 若い村

村花



丸葉さつき

村木



つばき

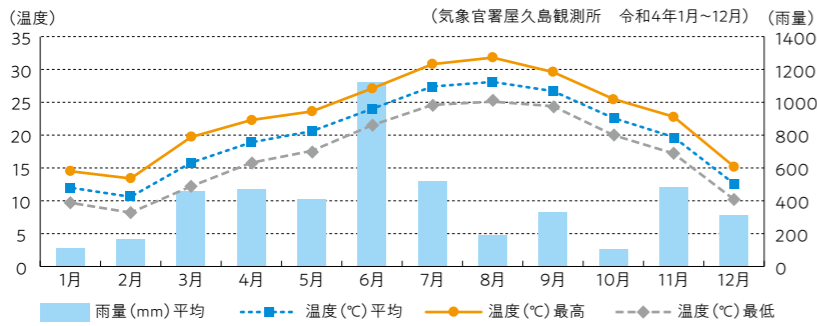
概況

本村は、霧島火山帯に属する火山群島で、なかでも硫黄島は常時噴気を上げている。硫黄島を除く他の島は海岸線の入江も少なく、台風期や季節風による激浪に洗われて海蝕壁が発達した。船舶の停泊に適する屈曲が少ないため各島とも隔絶性が強く、狭く険しい山地が多く平地が少ない。気候はおおむね亜熱帯的の海洋性気候で、黒潮の影響を受け極めて温暖な気候だが、四季を通じて風害・塩害が多い台風常習地帯でもある。

位置及び面積

島名	位置			鹿児島港までの距離 (km)	周囲 (km)	面積 (km ²)
	測量地点	北緯 (N)	統計 (E)			
竹島	集落	30° 48'32"	130° 25'19"	94	12.8	4.22
硫黄島	硫黄島	30° 47'27"	130° 18'27"	108	19.1	11.62
黒島	ヤグラ岳	30° 49'29"	130° 56'29"	153	20.1	15.39
合計					52.0	31.23

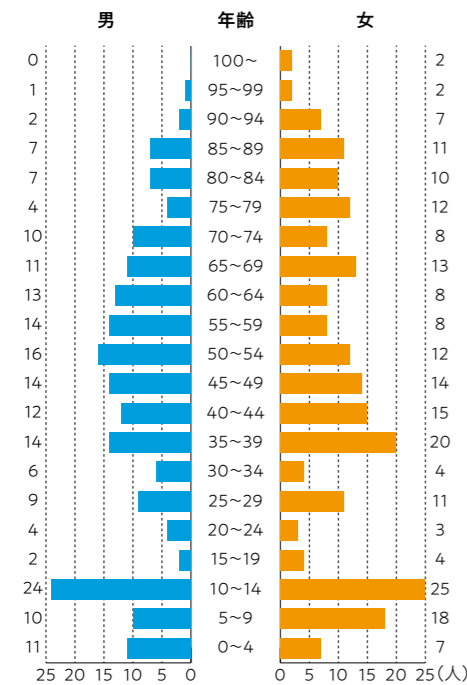
気象



年代別世帯数

(令和2年3月国勢調査)

世帯数:218
総人口:405
男:191
女:214



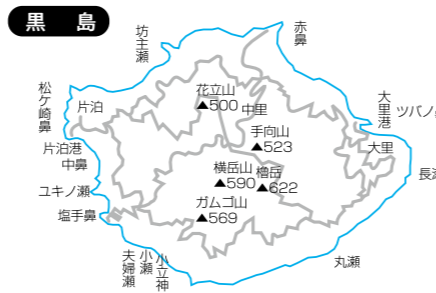
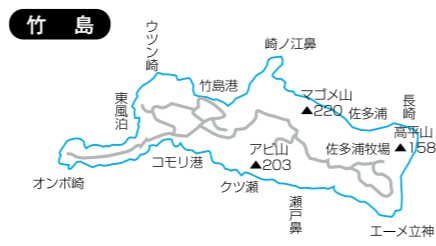
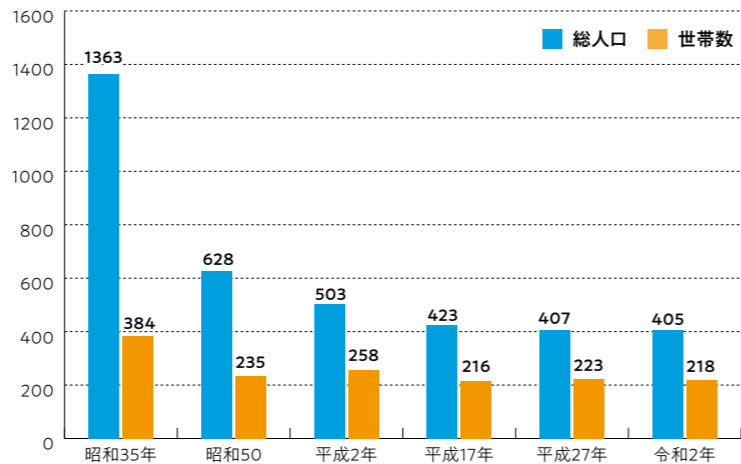
地区別人口と世帯数

(令和5年3月)

地区名	世帯数	人口		
		男	女	総数
竹島	38	25	32	57
硫黄島	67	59	66	125
黒島	大里 66	58	60	118
	片泊 32	37	33	70
計	203	179	191	370

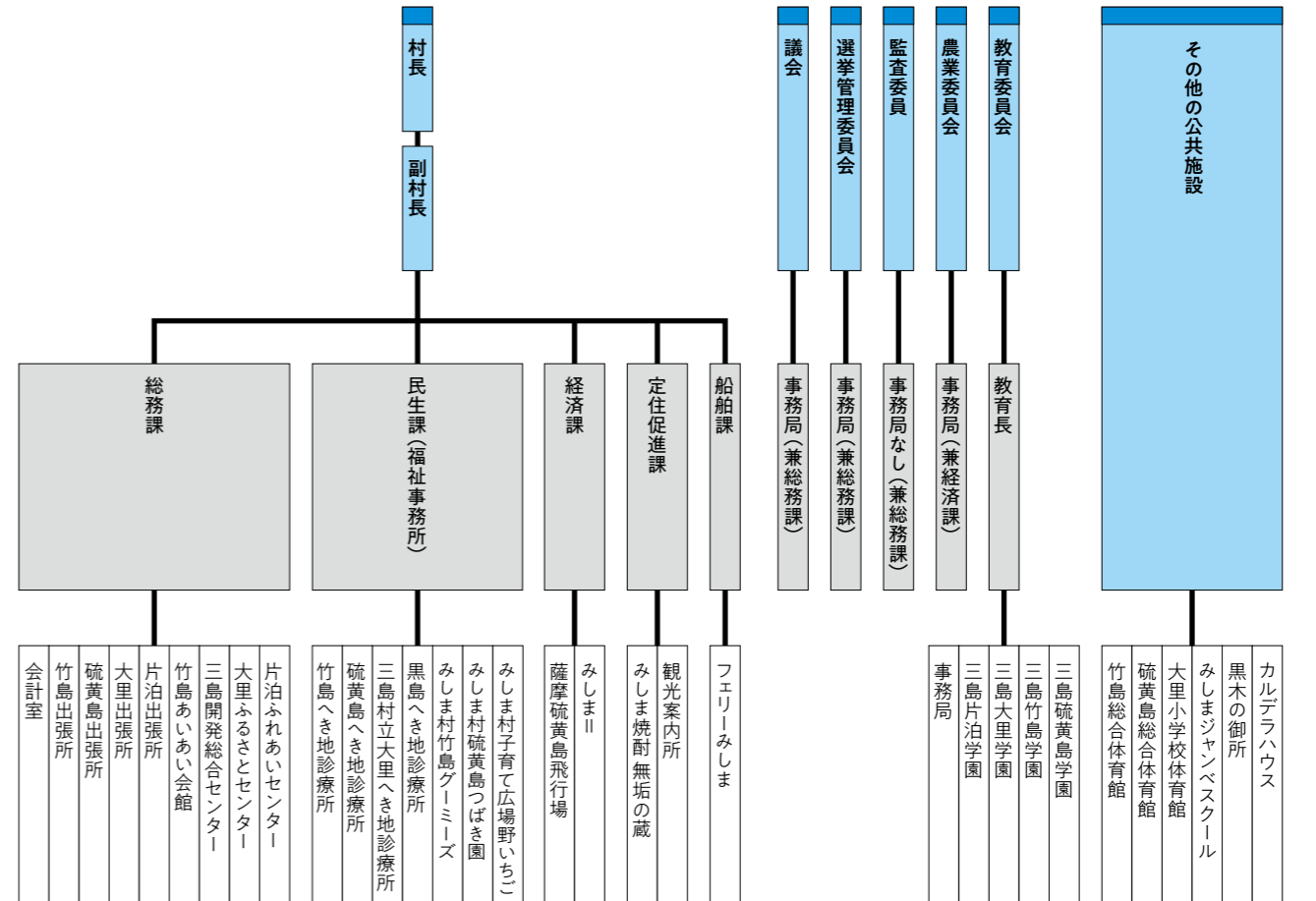
人口・世帯数

(昭和35年~令和2年国勢調査)



行政

本村は、交通通信の便と村の立地条件、経済、文化などあらゆる面で鹿児島市を経て交流するなどの特殊事情があるため、役場を鹿児島市に置き、各島には出張所を置いている。交通は、村営で船舶交通事業を住民の足である生活航路として運営している。



歴代村長

順位	氏名	就任年月日	退任年月日	在任年数	備考
初代	安永幸内	昭和21年2月22日		1	
二代	〃	昭和22年4月30日	再任	4	
三代	〃	昭和26年4月30日	〃	4	
四代	〃	昭和30年4月30日	昭和33年2月1日	2.10	死亡
五代	安永政次郎	昭和33年3月25日		4	
六代	〃	昭和37年3月5日	再任	4	
七代	〃	昭和41年3月10日	昭和42年8月22日	1.6	死亡
八代	森田愛蔵	昭和42年10月8日	昭和46年10月7日	4	
九代	栗原正	昭和46年10月8日	昭和50年10月7日	4	
十代	〃	昭和50年10月8日	再任	4	
十一代	〃	昭和54年10月8日	〃	4	
十二代	〃	昭和58年10月8日	〃	4	
十三代	〃	昭和62年10月8日	〃	4	
十四代	〃	平成3年10月8日	〃	4	
十五代	〃	平成7年10月8日	〃	4	
十六代	〃	平成11年10月8日	〃	4	
十七代	〃	平成15年10月8日	平成17年10月22日	2	死亡
十八代	大山辰夫	平成17年12月4日	平成21年12月3日	4	
十九代	日高郷士	平成21年12月4日	平成25年12月3日	4	
二十代	大山辰夫	平成25年12月4日	平成29年12月3日	4	
二十一代	〃	平成29年12月4日	再任	4	
二十二代	〃	令和3年11月14日	〃	現在	

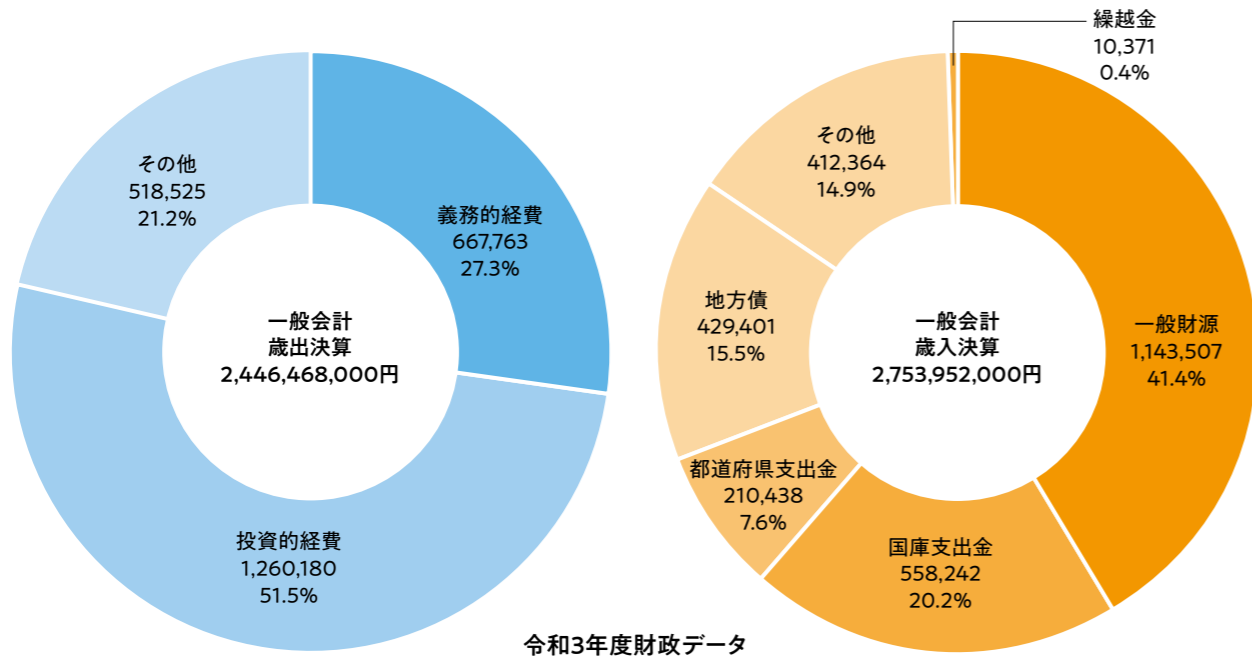
最近の選挙の状況

選挙名	執行日	投票者数	投票率
衆議院選挙	2021年10月31日	239	84.45%
参議院選挙	2022年7月10日	220	76.66%
県知事選挙	2020年7月12日	209	82.28%
村長選挙	2021年11月14日	243	88.69%
村議会選挙	2019年4月21日	231	90.23%
県議会選挙	2022年7月10日	211	80.84%

選挙人名簿登録者数

(2023年3月1日時点)

地区名	投票区別有権者数			投票区
	男	女	計	
硫黄島	43	49	92	1
片泊	26	22	48	2
竹島	21	24	45	3
大里	38	49	87	4
計	128	144	272	

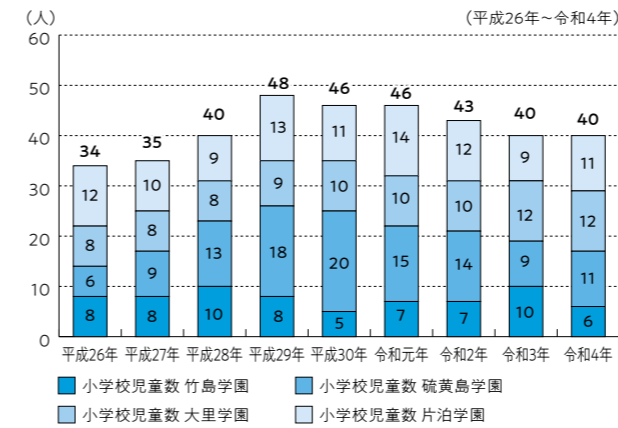


令和3年度財政データ

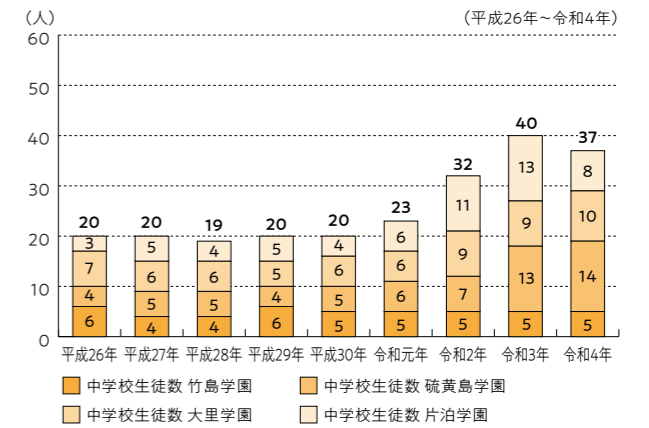
(単位：千円)

区分	平成27年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
歳入総額 A	2,436,527	2,084,024	2,030,100	2,753,952
一般財源	1,114,350	928,205	969,948	1,143,507
国庫支出金	643,861	239,697	289,307	558,242
都道府県支出金	188,018	286,503	218,285	210,438
地方債	149,435	350,421	227,674	429,401
うち過疎対策事業債	73,400	119,100	77,300	241,800
その他	340,863	279,198	324,886	412,364
歳出総額 B	2,293,610	2,071,928	1,915,795	2,446,468
義務的経費	1,085,211	894,833	625,270	667,763
投資的経費	1,064,162	1,077,573	788,907	1,260,180
うち普通建設事業	582,266	1,036,075	746,401	1,236,542
その他	144,237	99,522	501,618	518,525
過疎対策事業費	0	0		0
歳入歳出差引額 C (A-B)	142,917	12,096	114,305	307,484
翌年度へ繰越すべき財源 D	17,159	8,244	85,287	10,371
実質収支 (C-D)	125,758	3,852	29,018	297,113

小学校(前期課程)児童数推移



中学校(後期課程)生徒数推移



三島村文化財指定一覧表

(平成17年4月1日現在)

指定区分	名称	種別	所在地	備考
1	村	聖大明神社	史跡(神社跡)	三島村大字竹島118番地
2	村	六地藏	古石塔	〃 大字竹島21番地
3	村	黒木御所跡	史跡	〃 大字硫黄島字中園村29番地
4	村	俊寛堂	史跡(祠堂跡)	〃 大字硫黄島字阿南御前203番地
5	村	熊野神社	史跡(神社跡)	〃 大字硫黄島字宮之馬場80番地
6	村	安徳天皇墓	墓石群	〃 大字硫黄島133番地
7	村	板碑	古石塔	〃 大字硫黄島字溜水228番地
8	村	黒尾大明神社	神社	〃 大字黒島字宮後63番地
9	村	冠大神	神社	〃 大字黒島字冠岳103番地
10	村	イバドンの墓	墓石群	〃 大字黒島字菅尾32番地
11	村	菅尾大明神社	史跡(神社跡)	〃 大字黒島字立山83番地
12	村	三島村黒島大里八朔踊り	無形民俗文化財	〃 黒島大里地区
13	村	三島村硫黄島盆踊り(桂松)	無形民俗文化財	〃 硫黄島地区
14	村	馬方踊り	無形民俗文化財	〃 竹島地区
15	村	盆踊り	無形民俗文化財	〃 黒島片泊地区
16	国	三島村硫黄島八朔大鼓踊り	無形民俗文化財	〃 硫黄島地区
17	県	九月踊り	無形民俗文化財	〃 硫黄島地区

公共施設一覧表

指定区分	所在地	電話番号
三島村役場	鹿児島市名山町12-18	099-222-3141
竹島出張所	三島村竹島7	09913-2-2225
硫黄島出張所	三島村硫黄島90-61	〃 -2-2104
大里出張所	三島村黒島15-15	〃 -2-2241
片泊出張所	三島村黒島31-2	〃 -2-2242
竹島あいあい会館	三島村竹島	〃 -2-2054
三島開発総合センター	三島村硫黄島	〃 -2-2262
大里ふるさとセンター	三島村黒島67-4	〃 -2-2047
片泊ふれあいセンター	三島村黒島39-3	〃 -2-2059
竹島へき地診療所	三島村竹島7	〃 -2-2054
硫黄島へき地診療所	三島村硫黄島90	〃 -2-2110
黒島へき地診療所	三島村黒島135	〃 -2-2201
三島村立大里へき地診療所	三島村黒島67-4	〃 -2-2254
薩摩硫黄島飛行場	三島村硫黄島無番地	〃 -2-2090
みしま焼酎 無垢の蔵	三島村黒島204-1	〃 -3-2345
三島村観光案内所	三島村硫黄島87	〃 -2-2370
三島竹島学園	三島村竹島43	〃 -2-2002
三島硫黄島学園	三島村硫黄島80	〃 -2-2106
三島大里学園	三島村黒島44	〃 -2-2237
三島片泊学園	三島村黒島42	〃 -2-2200
鹿児島中央警察署 硫黄島駐在所	三島村硫黄島80	〃 -2-2111
竹島簡易郵便局	三島村竹島7	〃 -2-2088
硫黄島郵便局	三島村硫黄島89-14	〃 -2-2200
大里簡易郵便局	三島村黒島15-15	〃 -2-2055
片泊簡易郵便局	三島村黒島135	〃 -2-2030
みしまジャンベスクール	三島村硫黄島218	〃 -2-5001
竹島総合体育館	三島村硫黄島	〃 -2-2002
三島村総合体育館	三島村硫黄島	〃 -2-2078
大里小学校体育館	三島村黒島2	〃 -2-2237

村年表

年	月	主要件名	説明
明治初年		在番所時代	竹島に在番所が置かれた(明治以前は島津藩から上三島の竹島、下七島の中の島に代官が派遣されていた)。
明治8年		戸長制時代	戸長制時代薩摩国川辺郡に属す。
明治18年			金久支庁西之表出張所轄下に入る。
明治22年		私学校時代	硫黄島に長浜衛守翁による私塾が地区経営の形で運営され、小学校令施行まで続けられた。
			黒島は明治17年頃、現在青年倶楽部の所在する地に草屋根の小屋を建て、禪宗の僧侶・日高晋勢氏が創始し、その後田畑為秀、生駒友之進、法貞悦の各氏が地区の招きに応じて子弟を寺子屋式に教授している。
明治22年		町村制施行	旧十島村にはこの制度は適用されず、大島郡に編入。大島支庁の管轄となり、役場は中之島に設置された。
明治35年		硫黄島郵便局開設	硫黄島に郵便局が開設される。
明治40年		島嶼町村制施行	初めて自治体として島嶼町村制施行される。
大正15年		大島島庁大島支庁と改称	大島々庁が大島支庁に行幸の際、村の窮情を聴召される。
昭和2年	8月	天皇陛下奄美大島に行幸	天皇陛下奄美大島に行幸の際、村の窮状を聴召される。
昭和5年	4月	小学校令施行	硫黄島寿尋常小学校認可。竹島、大里、片泊は分校として同時に施行。
昭和7年	4月	高等科設置認可される	小学校に高等科設置認可される。
昭和8年	4月	十島丸就航	村民の熱烈な運動が功を奏し、大蔵省から起債6万円を許可され、十島丸近海第二級貨客船(155t)を建造。四月から就航した(建造費7万2000円)。
昭和9年	9月	海底大噴火	
昭和10年	4月	青年学校設置	青年学校令施行と同時に青年学校を小学校に併設。
昭和16年	3月	金十丸就航	村内の交通は十島丸で幸うじて緩和されたが、税源に乏しく村財政を維持する為に稼働財源を必要としたので、金十丸を建造した(建造費70万円)。
昭和16年	12月	太平洋戦争勃発	
昭和20年	4月	船舶の国家管理	船舶戦時海運管理令により村営船金十丸、十島丸船舶運営会において管理運営される。
昭和20年	8月	終戦	無条件降伏の詔勅下る。
昭和21年	2月	旧十島村分断	連合国書書により、北緯30度線を暫定国境線と定めた為、旧十島村が分断され、竹島、硫黄島、黒島(現三島村)のみが残る。
	〃	三島村設立委員会開催	仮称「三島村」設立委員会(第一回公民総会)が開かれる。◎いわゆる「建村日」。
	〃	村長発令	仮村長安永幸内氏に鹿児島県知事より十島村長臨時代理者に発令される。
	〃	役場開庁	役場を鹿児島市稲荷町12番地に開庁(当時議員三名)。
	〃	行政管轄鹿児島郡に編入	内務省告示第22号により行政管轄鹿児島郡に決まる。
	5月	戸籍事務等開始	鹿児島地方裁判所長と司法省民事局長のりん伺回答によって戸籍及び司法関係事務鹿児島地方裁判所の管轄下となる。
	10月	三島丸就航	機帆船三島丸(33t)就航。農業会に委託運営させる。
	12月	村有船舶米軍に接収	村有船舶「金十丸、十島丸」在沖繩米軍に接収され運輸大臣より船舶使用廃止(船舶運営会で運営していた)の通達あり。
昭和22年	4月	硫黄島中学校設立	六、三制の施行に伴い、硫黄島中学校を創立。竹島、片泊、大里にそれぞれの分校を設置(硫黄島、竹島、大里、片泊とも小学校に併設)。
	〃	黒島小学校に昇格	「硫黄島小学校大里分校」を「黒島小学校」に昇格(片泊分校はそのまま)。
	〃	初の村長及び村議会議員選挙執行	初の公選村長に安永幸内氏、村議会議員に日高暁之進氏を選出。
	8月	十島丸返還	米軍に接収された十島丸の返還運動を行った結果、同船が返還され、鹿児島～三島～屋久島航路に就航。
	10月	役場新築移転	同市築町52番地に変更(建築費40万円)。
昭和23年	5月	重成知事二島村視察	重成鹿児島県知事一行(県議を含む)三島村視察。
	〃	村税賦課徴収条例等の公布	村議会の議決を経て鹿児島県知事の許可を受けた村税賦課徴収条例外、諸条例公布される。
	6月	農業協同組合設立	農業協同組合法に基づく三島村農業協同組合設立。
昭和24年	4月	小学校・中学校の名称変更及び昇格	「硫黄島中学校」を「三島中学校」に改称。 「硫黄島小学校竹島分校」を「竹島小学校」に昇格。 「黒島小学校」を「大里小学校」に改称。
			「黒島小学校片泊分校」を「片泊小学校」に昇格。
			「黒島小学校片泊分校」を「片泊小学校」に昇格。
			鹿児島郵便局黒島分室及び、竹島分室開設。
	6月	戸籍簿等返還	戸籍簿、土地台帳等の関係公簿、外務省を通じて返還される。
	7月	診療所を設置	三島村診療所を硫黄島に設置。
	8月	漁業組合設立	三島村漁業協同組合を設立。
	12月	金十丸返還の請願参議院採択	金十丸返還に関する請願が参議院において採択される。
昭和25年	4月	県議会議員の選挙区	県議会議員の選挙区が鹿児島郡に編入される(昭和25年法律第100号)。
	5月	役場出張所を設置	硫黄島、片泊、大里、竹島に役場出張所を置く。
	8月	巡查部長派出所設置	鹿児島警察署硫黄島巡查部長派出所設置される。
	12月	G・H・Qに村長議長出頭	旧十島村財産(船舶)処分のため、村長及び議長が連合軍総司令部に出頭を命ぜられる。
昭和26年	3月	財産処分決定	十島丸を三島村が、金十丸を十島村が所有することに決定。
	7月	分村について住民一般投票	下七島日本復帰近しの報に、正式に分村するか否かについて住民の賛否投票を行う。 投票結果 投票総数 676票 内有効投票 675票 分村に賛成 651票 分村に反対 24票
	〃	村名変更について住民一般投票	村名変更について、分村の賛否投票と同時に執行される(三島村493票で第1位、次いで新三島村82票、3位美島村31票、4位昭和村26票、5位三和村20票。)
	10月	ルース台風猛威を振るう	ルース台風により村全域にわたり甚大な被害を受けた。
	12月	下七島日本に復帰	連合国最高司令官書「若干の外かく地域の日本からの政治上及び行政上の分離に関する件」に基づき、北緯29度線以北の下七島(旧十島村の一部)日本に復帰。
昭和27年	2月	村の協会変更許可	下七島の日本復帰により鹿児島県大島郡に関する地方自治体の適用及びこれに伴う経過措置に関する政令(昭和27年政令第13号)により、下七島は新たな村として発足。本村は村の境界を北緯30度線以北の竹島、硫黄島、黒島に変更する行政手続きをとった。
	〃	村の名称変更条例施行	村の境界変更と併し、村の名称「十島村」を「三島村」と改称する条例を知事の許可を得て公布した。◎法令上の「建村日」。

年	月	主要件名	説明
	7月	金十丸帰還	金十丸は奄美米軍政府管轄下の奄美商船(株)が管理していたが、十島の日本復帰により強制帰還した。
	10月	三幸丸就航	近海二級貨物客船三幸丸(301.94t)就航(三島經由屋久島航路)、進水8月、竣工10月(建造費8000万円)。
	11月	旧十島村の関係船舶運営について一部事務組合設立	十島村と共同で金十丸、十島丸の運営を地方自治法に基づく一部事務組合「三島船舶交通事業、一部事務組合」で行う。
	〃	林道工事(黒島)着工	奥地開発林道黒島線10カ年計画事業着工(村直営事業)(工事費100万円)。
昭和28年	10月	片泊小学校竣工	片泊小中学校落成(木造平屋建86坪)。…中学校は分校。
	12月	金十丸外航廃止	奄美大島日本復帰に伴い、金十丸外航(沖繩航路)を廃止。奄美大島航路に就航。
昭和29年	3月	十三島船舶交通事業一部事務組合解散	十三島船舶交通事業一部事務組合解散。
	11月	無線電話連絡所設置	村営で無線電話連絡所を硫黄島に設置。
昭和30年	3月	硫黄島発電所竣工	硫黄島火力発電所竣工(出力20kW、点灯数285戸数150戸)。
	4月	奨学金制度を設ける	小学校令施行25周年記念事業として奨学金制度を設ける。
	7月	無線電話開通	村営無線電話連絡所と日本電信電話公社との交信契約設立、通話開始。
	11月	小学校令施行25周年記念	小学校令施行25周年記念、硫黄島で挙行。村体育祭も併せ行う。
	〃	三島小・中学校竣工	硫黄島小・中学校校舎竣工(鉄筋二階建177坪・工事費約635万円)。…小学校は硫黄島小学校。
	12月	第二・三幸丸竣工	村内専用船として第二・三幸丸(鋼製貨客船、101t、速力10.5ノット、乗客定員65名)竣工(建造費1100万円)。
昭和31年	4月	中学校三分校本校に昇格	三島中学校竹島分校、同片泊分校、同大里分校、それぞれ本校に昇格。
	6月	硫黄島港地方港湾に指定	硫黄島港地方港湾(乙種)に指定される。
	7月	硫黄資源の大規模開発工事開始	小野田セメント(株)傍系の南島硫黄(株)設立。
	11月	新教育委員会発足	地方教育行政の組織及び運営に関する法律が施行され、新教育委員が発足。
昭和32年	3月	黒島発電所竣工	黒島水力発電所(宇中里、中里川の downstream)竣工(出力30kW、無灯戸数101戸)。
		竹島小学校竣工	竹島小学校完成(鉄筋コンクリート)(工事費約378万円)。
	4月	小学校名称変更	「硫黄島小学校」を「三島小学校」と改称。
	6月	電話連絡所を公社に移管	硫黄島無線電話連絡所を日本電信電話公社に移管。
	11月	硫黄島の笠踊、全国民俗芸術祭に参加	昭和32年度芸術祭主催、日本民俗郷土芸術祭に硫黄島の婦人笠踊参加(於東京日本青年会館)。
昭和33年	1月	金十丸売買契約締結	村営船金十丸の売買契約成立(700万円)。
	3月	三島小中学校へき地集会所竣工	三島小中学校へき地集会所竣工(鉄筋コンクリート78坪・工事費約372万円)。
	5月	県議会に金十丸代船建造調査特別委員会設置	県議会に金十丸代船建造調査特別委員会が設置され総務警察委員会がこれを担当、調査研究することになった。
	12月	竹島発電所竣工	竹島火力発電所竣工(出力10kW、点灯戸数59戸)。
昭和34年	4月	電気利用組合設立	発電事業は農協経営から各地区毎に結成された電気利用農業協同組合に引き継がれ運営されることになった。
	〃	農山漁村建設計画地域に指定	新農山漁村建設計画地域に指定される。三島村築農山漁村総合建設計画樹立推進委員会結成。
	〃	皇太子御成婚記念民族芸能祭に参加	大里青年団の大名踊、岩波写真文庫の招きにより、皇太子御成婚記念民族芸能祭に参加発表。
	5月	松竹映画「私は忘れない」黒島で現地ロケ	旭新聞連載小説「私は忘れない」が映画化、松竹ロケ班一行黒島で約20日にわたり撮影が行われた(住民多数も出演)。
	12月	興南丸就航	近海第二級貨客船(719.84t、速力15.5ノット)鹿児島一名瀬一徳之島一沖永良部一与論航路に就航(建設費1億7500万円)。
	〃	黒島へき地出張診療所開設	公的医療機関黒島へき地出張診療所開設される。
昭和35年	3月	三島丸売却	三島丸(33t)を廃船とし、63万で処分した。
	6月	夏季移動相談実施	県、NHK共催夏季移動相談(移動県庁)開かる。9月営農指導班巡回。
昭和36年	1月	黒島、竹島も電話開通、硫黄島局交換開始	硫黄島と黒島・竹島を結ぶ海底電線が布設され黒島、竹島にも電話(各1本)が開通した(竹島13番、大里14番の甲、片泊14番の乙)。
	2月	村創立15周年記念	村創立15周年記念祝賀会を挙行し、学芸会、敬老会、映画会等も併せ行う。
昭和37年	2月	硫黄島へき地診療所新築	建物焼失により硫黄島へき地出張診療所新築(工事費約300万円)。
昭和40年	9月	片泊簡易郵便局開設	三島村片泊簡易郵便局開設。
昭和41年	2月	村創立20周年記念	村創立20周年記念祝賀会を挙行。
昭和42年	3月	村営畜産センター建設	村営畜産センター建設(工事費72万5000円)。
		へき地集会所完成	片泊中学校へき地集会所建築(鉄筋コンクリート72㎡、工事費約400万円)。
	8月	村長安永政二郎氏死亡	村長・安永政二郎氏急死
	10月	役場庁舎新築	役場庁舎新築工事完成(現庁舎工事費約1600万円)。
昭和44年	8月	竹島へき地診療所設置	竹島へき地診療所開設(ブロック平屋造39.75㎡、工事費約1590万円)。
	10月	船舶建造基金設置	船舶建造の資金に充当するため、船舶建造基金積立制度を新設する。
昭和45年	10月	へき地集会所完成	大里小中学校へき地集会所完成(工事費7548万円)。
昭和46年	3月	冷蔵庫設置	硫黄島に水産業協同出荷冷蔵庫設置(事業費約300万円)。
	〃	簡易宿泊施設	簡易宿泊所みゆき荘完成(工事費440万円)。
昭和47年	3月	村秘史発行	松永守道氏編集による秘史を発行。
	〃	硫黄島出張所新築	硫黄島出張所新築(工事費1100万円)。
	7月	三島村敬老金支給条例の制定	70歳以上の高齢者に年額5000円の敬老金を支給。
	〃	巡回県民相談	各島で実施。
	8月	村内中学校体育大会	硫黄島で開催。
	10月	炬火上陸	太陽団体で炬火村内を走る。
昭和48年	3月	学校用自動車配置	運搬用トラック購入1t車2台。
	〃	へき地集会所新築	竹島小中へき地集会所新築(コンクリートブロック平屋200㎡、工事費890万円)。
	〃	農林水産業振興資金貸付制度創設	村民の畜産、漁業振興に関する資金貸付制度を制定する(無利子)。
	〃	ヤマハ企業誘致	レクリエーション施設、旅荘足摺開設、観光園地開設等を計画。
	4月	郡の区域変更	大島郡の区域から鹿児島県に変更になる。
	〃	みしま就航	村営船みしま就航(鋼船445t、航海速力15.5ノット、定員183人)。
	6月	南西諸島地域振興計画策定	離島振興法の延長により10カ年計画策定。
	8月	三島村自然保護条例の制定	村のすぐれた自然を保護し、自然と調和した生活環境をつくるための自然保護条例を制定。

村年表

年	月	主要件名	説明
	10月	ヤマハによる薩摩硫黄島飛行場開設	滑走路、着陸帯720m。10人乗り定期航路開始される(アイランダー)。
昭和49年	3月	大里生活センター完成	大里生活センター完成(鉄筋コンクリート二階246㎡、工事費1920万円)。
	〃	ヘリポート建設	大里ヘリポート建設(50m×50m)。
	4月	硫黄島港定期船接岸	定期船みしま接岸開始。
	〃	旅館「足摺」オープン	誘致企業ヤマハのホテルオープン。
	〃	医療費貸付制度開始	村民の医療費の貸付に関する条例制定。
	5月	24時間送電開始	硫黄島地区で24時間送電開始される。
	10月	老人憩いの家完成	老人憩いの家を硫黄島に建設(工事費2159万円)。
昭和50年	1月	大里港定期船接岸	定期船、接岸開始。
	〃	大里・片泊線舗装工事	大里・片泊線舗装開始(大里側舗装・片泊側改良舗装)。
	3月	片泊集会所完成	片泊集会所完成(コンクリートブロック平屋245㎡、工事費2450万円)。
	〃	ヘリポート建設	片泊ヘリポート建設(50m×50m)。
	3月	三島村国民健康保険制度を実施	医療確保、財政維持などで遅れていた国保制度を開始する。
	8月	非常災害無線電話設置	村内全地区に日本電信電話公社が設置。
	10月	テレビ難視聴解消事業	硫黄島地区テレビ難視聴解消事業(共同アンテナ)完成。
	11月	秋の叙勲に日高氏	栄ある秋の生存叙勲に大里の日高敏之進氏決定(皇居で授与式)。
昭和51年	2月	住宅資金貸付基金制度創設	村民の経済自立と生活意欲の助長促進のため、住宅資金貸付制度開始(無利子)。
	3月	ヘリポート建設	竹島ヘリポート建設(50m×50m)。
	7月	自治省財政局長視察	自治省石原財務局長以下県総務部長一行村内視察。
	8月	金丸国土庁長官視察	金丸国土庁長官一行村内を視察。
	11月	竹島港定期船接岸	定期船接岸開始。
	12月	竹島生活センター完成	鉄筋コンクリート二階建225.4㎡(工事費2584万円)。
昭和52年	4月	県知事来村	鎌田知事の「車座」トップを切った硫黄島で開催。
	10月	二地点航空路開設	鹿児島-硫黄島-屋久島の二地点航空路を開設。
昭和53年	3月	片泊ヘリポート建設	発着場50m×50m(工事費800万円)。
	5月	竹島竹の子工場完成	竹の子罐詰生産開始。
	6月	大里で臨時村議会	臨時村議会在大里で開催。
	7月	黒島・竹島の発電所九電移管	九州電力株式会社による一般受電化実施(三島村漁協が委託運営)。
	〃	テレビ難支庁地区解消事業	片泊地区共同アンテナ完成。
	11月	片泊港改修工事	改修工事始まる(工事費8億円)。
昭和54年	2月	村内電話の自動化	村内の電話が自動ダイヤル化される。
	4月	珪石採掘事業開始	南島オパール株式会社が良質の珪石を採掘し出荷する。
	7月	硫黄島発電所九電移管	九州電力株式会社による一般受電化実施(漁協委託)。
	8月	鹿児島県小学校卓球大会	大里小学校女子団体優勝及び男子女子個人優勝。
	10月	台風20号村を襲う	大里港防波堤決壊(被害総額1億7000万円)。
昭和55年	4月	片泊港定期船接岸	定期船接岸開始。
	7月	竹島で臨時村議会	臨時村議会竹島で開催。
	8月	鹿児島県小学校卓球大会	大里小学校男子団体優勝。
	10月	大里片泊線県道移管	大里・片泊間9627m県道移管(県道221号線)。
	〃	県議会文教衛生委員一行村内視察	川上哲夫委員長一行15名。
	〃	三島村創立35周年記念式典	各地区毎に創立35周年記念式典及び祝賀会(功労者25名表彰)。
	〃	村民憲章を制定	村創立35周年を記念して、村民憲章を制定。
昭和56年	1月	鹿児島県スポーツ少年団卓球大会	大里小学校男子団体及び個人優勝。
	2月	鹿児島県中学校新人卓球大会	大里中学校男子及び女子個人優勝。
	3月	全国スポーツ少年団卓球大会	大里小学校出場(東京で開催)。
	7月	大里診療所開設	大里生活センター内に開設。
	10月	九州地区民俗芸能発表大会出演	硫黄島地区八朔太鼓踊出演(県文化センター)。
	11月	村内消防団合同操法訓練	硫黄島54名出席(竹島、硫黄島、大里、片泊各分団)。
昭和57年	2月	鹿児島県中学校新人卓球大会	大里中学校女子団体優勝。
	3月	定期網を設置	硫黄島に定期網が設置される。
	4月	NHK黒島でロケ	「自然のアルバム」で黒島の渡り鳥を取材。全国に放送される。
	〃	花嫁対策事業開始	当初予算40万円でデート代を支給する花嫁対策事業を開始。
	5月	枕崎市親善訪問団村内訪問	田代枕崎市長一行各島親善訪問。
	〃	大里中卓球で九州大会優勝	全九州中学生卓球大会で大里中の女子チームが見事な優勝。
	〃	全九州中学校卓球大会	大里中学校女子団体優勝ダブルス優勝(熊本県)。
	〃	全国スポーツ少年団卓球大会	大里小学校男子出場。
	7月	大里で牛大量死	大里地区で22頭の牛が死亡。
	〃	県議会議長視察	県議会議長の上司議長が村内視察。
	8月	硫黄島八朔踊枕崎港まつり参加	枕崎市港まつり招待特別参加。
	〃	鹿児島県小学生卓球大会	大里小学校男子団体優勝。
	〃	全九州中学校卓球大会	大里中学校男子優勝(長崎県)。
	〃	日本全国中学校卓球大会	大里中学校女子団体九州代表で出場(鳥取県)。
	10月	鹿児島県民俗芸能発表大会出場	大里地区八朔踊りが第22回鹿児島県民俗芸能発表大会に参加(伊集院町文化館)。
	11月	「枕崎少年の船」始まる	
	12月	全国卓球選手権大会	大里中学校男子団体九州代表で出場(東京)。
昭和58年	3月	全国発明工夫展	科学技術長官賞受賞(大里中学校)。
	〃	三島の「つわぶき」店頭へ	つわぶきのバックをスーパーに試験出荷。
	5月	島に花嫁さんが来る	花嫁対策事業によるカップル第1号誕生(硫黄島、徳田保・留美さん)。
	6月	県副知事視察	宮原県副知事が村内を視察。

年	月	主要件名	説明
	7月	竹島地区一般加入電話開通	竹島地区28戸一般電話加入。
	8月	村章・村の木・村の花制定	村章(日高繁守氏デザイン)、村の木「つばき」、村の花「丸葉さつき」決定。
	〃	全九州中学校卓球大会	大里中学校男子団体県代表で出場(沖縄県)。
	〃	全国中学校卓球大会	大里中学校男子団体九州代表で出場(徳島県)。
	9月	台風10号片泊を直撃	防波堤18mが破損(被害額約2億円)。
	11月	第1回三島村婦人会総会	竹島へき地集会所で行われる。
	〃	黒島地区一般加入電話開通	黒島95戸一般電話加入。
昭和59年	2月	全国町村会優良町村表彰	優良町村として表彰される。
	7月	シンガポール貨物船座礁	グロリアエクスプレス号(7600t)硫黄島磯松海岸に座礁。
	9月	三島開発総合センター完成	鉄筋コンクリート2階建、1053.18㎡250人収容の大ホールを備えた多目的施設(工事費約1億8000万円)。
昭和60年	3月	黒島の竹の子入賞	第2回ふる里産業創意工夫コンクールに、大里竹の子振興会の「くろしま調味漬」が奨励賞受賞。
	8月	つくば万博で八朔太鼓踊	硫黄島の八朔太鼓おどりがつくば万博会場で披露される。
	〃	村行政改革委員会発足	村の行政改革推進委員会が発足する(委員5人)。
	10月	運輸省調査団一行視察	離島航路経営改善方策調査のため村を視察。
昭和61年	2月	シイタケ初出荷	村が進めている地場産業振興の一つであるシイタケを300kg初出荷。
	〃	ふるさと産業創意工夫コンクール	第3回ふるさと産業創意工夫コンクールで「ひめ皮佃煮」特賞受賞。
	〃	初市に参加	照国神社で行われた初市に参加、村の特産品竹の子、ツフ、椿油などを販売し大好評。
	7月	妙塔落成式	宗教法人 平等大慧会妙塔完成(約200人の信者が来村)。
	10月	新船みしま就航	800t型貨客船、最高19.1ノット、定員250人(進水7月12日)。
	〃	第1回村民大運動会	硫黄島で開催。
	11月	地域おこし車座対話	知事公聴第2回「地域おこし車座対話」。
昭和63年	11月	火山爆發防災訓練	島民全員参加で行われる。
	1月	硫黄岳が53年ぶりに噴煙	
	4月	硫黄島「岬橋」完成	全長50m、幅4m。
	8月	青少年地域間交流	青少年市域間交流の受け入れが始まる。
平成元年	11月	第1回三島村文化祭	硫黄島で開催。
	2月	硫黄島音楽祭	
	3月	八朔踊り文化財指定	硫黄島の八朔踊りが県の文化財に指定される。
	10月	枕崎自然教室始まる	
	〃	全国離島芸能祭に参加	広島で開催。
平成2年	2月	村PR映画完成	試写会に新聞社・テレビ局外部を招待。
	〃	白衣観音像建立	黒島流れの慰霊碑として故・田代枕崎市長により建立。
	4月	鹿児島県森林の森喜界島樟林認定	県森林浴の森として認定される。
	〃	三島村活魚畜養施設完成	ログハウス風活魚畜養施設59.18㎡、工事費2402万5000円。
	5月	三島村誌完成	2000部編さん。
	8月	第1回ミシマカップヨットレース開催	鹿児島市平川町-硫黄島間(60マイル)でレースを実施。
平成3年	3月	硫黄島温泉プール完成	50mプール6コース工事費9550万円。
	4月	竹島体育館完成	落成祝賀会160名参加。桜島火の島太鼓出演。
平成4年	3月	大里ふるさとセンター完成	鉄筋コンクリート2階建742㎡、工事費2621万5000円。
	〃	有吉佐和子顕彰碑除幕式	建立費680万円。
	9月	学校週5日制開始	9月12日第2土曜日より。
	10月	三島ガイドブック発行	
	11月	村営船みしま発着所移転	北埠頭へ移転。
平成5年	3月	片泊ふれあいセンター完成	鉄筋コンクリート2階建693㎡、工事費2億9806万1000円)。
	〃	大里ふれあい農場開設	しいたけ栽培農場開設。
平成6年	1月	三島村歌「夢光る」	三島開発総合センターで発表会を開催。
	〃	イメージソング「三島旅情」	〃
	〃	全国三島大会参加	愛知県伊予三島市で開催された。
	3月	片泊小中学校プール完成	3コース25m工事費7876万円。
	〃	片泊簡易水道配水池改修完成	全自動急速ろ過装置、受水槽25㎡1基。
	4月	村営薩摩硫黄島飛行場開設	日本初の村営飛行場としてオープン。
	6月	片泊簡易水道配水池配水タンク増設	受水槽18㎡1基。
	8月	特別養護老人ホーム桜島苑地鎮祭	桜島町・鉄筋コンクリート平屋建50床(5床)。
	〃	ママディ・ケイタ硫黄島公演開催	ミシマカップヨットレースと合わせて公演。
	〃	(三島っ子ジャンベツアー実施)	ママディ・ケイタ外スタッフ10名・三島っ子19名。
	9月	大里簡易水道配水池改修完成	全自動急速ろ過装置、受水槽20㎡2基。
	10月	在宅福祉事業推進功労厚生大臣表彰	在宅福祉サービス事業で地方公共団体部門による初の表彰。
	〃	ミシマカップ自治大臣賞受賞	潤いど活力のあるまちづくり優良地方公共団体として受賞。
	〃	ミシマカップ国土庁長官賞受賞	地域づくり全国交流会議・滋賀県長浜市大会で受賞。
	11月	全国花いっぱい運動農林水産大臣賞受賞	片泊小中学校が受賞。
平成7年	3月	俊寛像・俊寛堂建立	俊寛像1体・俊寛堂1棟工事費1503万8000円。
	〃	あいあい会館完成	竹島 鉄筋コンクリート2階建405㎡、工事費1億7790万円。
	〃	大里共同利用畜舎建設	鉄骨スレート525㎡、工事費2106万2000円。
	〃	硫黄島飛行場待合所完了	鉄筋コンクリート平屋建77㎡、工事費4192万3000円。
	〃	坂元温泉休憩所完了	休憩所88.6㎡、取付道路57m、工事費1980万円。
	〃	特別養護老人ホーム桜島苑完成	桜島町鉄筋コンクリート平屋建本村入所枠5人確保する。
	〃	竹島簡易水道第3水源地新設完成	ウツ崎受水槽20㎡。
	5月	俊寛像除幕式	中村勘九郎一行9名、県企画部長出席。
	7月	記録的な集中豪雨災害	全島被害39箇所。復旧費約2億5000万円。

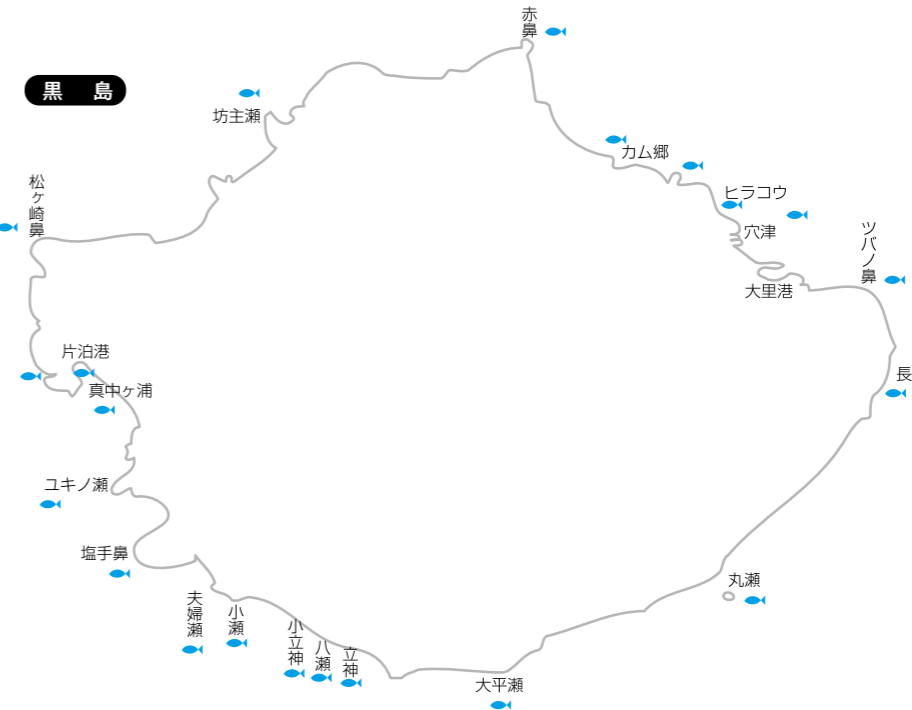
村年表

年	月	主要件名	説明
平成8年	3月	大里地域テレビ共同受信施設完成	大里地域61戸加入。事業費813万7000円。
	5月	三島村歌舞伎「俊寛」公演	硫黄島の砂浜で上演。全国的话题となる。出演・中村勘九郎、観客800人。
	8月	台風3号被害	片泊地区ほとんど被災。全・半壊6棟、一部破損44棟。港湾、公共施設数カ所。
	10月	三島総合体育館完成	バレーコート1面、トレーニングルーム、ステージ855m。
	11月	建村50周年記念式典	三島総合体育館で開催。功労者表彰を行う。村民文化祭も同時開催。
平成9年	3月	竹島雲母崎公園キャンプ場完成	炊事棟、トイレ、テーブル、ベンチ設置、水道施設。
	〃	黒島地区ゴミ焼却炉建設工事完成	大里地区1基、片泊地区1基。
	〃	竹島畜産団地完成	
	〃	竹島地域テレビ共同受信施設完成	竹島地区57戸加入。
	10月	しおかぜ留学制度始まる	大里地区4名。
平成10年	3月	竹島地区生ゴミ高速発酵処理施設完成	BM-6002ECP型1基。
	〃	片泊港漁船巻上施設完成	デレッククレーン3t巻
	〃	かめりあ・そーぶ(樺石鮎)発売	島内外で好評を得る。
	5月	第1回俊寛まつり	三島村俊寛歌舞伎上演記念碑除幕式も同時開催。ツアー実施。
	8月	第8回ミシマカップ	参加艇39艇。
	〃	山火事	硫黄島8ヘクタール。
平成11年	1月	三島村青少年ギニア交流	中学生4人をギニアへ派遣。
	3月	防災行政無線基地局	黒島5箇所にアンテナ。
	8月	第9回ミシマカップ	参加艇50艇。
	10月	高齢者旅行	硫黄島で開催。参加者70人。
	11月	鹿児島地区植樹祭	硫黄島で開催。
平成12年	4月	竹島地区地籍調査開始	
	5月	みしまっ子ジャンベ演奏	牧園町みやまコンセールで演奏。小中学校30人参加。
	9月	黒島で初のミュージカル	大里で山彦のものがたり上演。有吉佐和子原作。
	10月	村に待望の常駐医師	鹿児島赤十字病院の医師。
	〃	国際火山会議開催	硫黄島に14カ国35人が参加。
	12月	小さな村の教育サミット	硫黄島。全国の教育長12人が参加。
平成13年	8月	みしまっ子ジャンベドイツ公演	小中学生16名参加。
	〃	第10回ミシマカップ	32艇参加。
	10月	村営船フェリーみしま就航	フェリータイプ。1196t、17億730万円。
	〃	国土交通省モニターツアー	関西15人。首都圏25人。
平成14年	3月	少子化対策遊具施設購入事業	シーカヤック、ジャンベ、ブランコ、ブロック。
	〃	県中学校音楽コンクール春の祭典特別賞	竹島・三島両中学校が合同でジャンベ演奏。
	4月	合併住民説明会	村内4地区で説明会。
	5月	診療車初の検診	歯科診療車・レントゲン診療車・胃がん検診車が初検診。
	7月	第36回県中学校音楽コンクールで金賞	三島中学校ジャンベ演奏。
	8月	ふるさと回帰事業	片泊会・硫黄島会が来島。
	〃	第11回ミシマカップ	32艇参加。
	〃	住民基本台帳ネットワーク整備	サービス開始。
	10月	総合行政ネットワーク整備	サービス開始。
平成15年	7月	劇黒島流れ上演	枕崎高校65人。片泊ふれあいセンターで公演。
	8月	第12回ミシマカップ	参加艇45艇。
平成16年	4月	黒島診療所改築竣工	
	5月	特攻平和観音像除幕式	大里平和公園に建立。
	8月	みしまジャンベスクール開校	ギニア大使夫妻訪問。事業費1億3000万円。
	〃	第13回ミシマカップ	参加艇42艇。
	〃	冒険ランドオープン	150名収容。鹿児島市が建設。
	〃	台風16号で被災を受ける	全壊1戸。職員ボランティアで復旧作業にあたる。
	〃	ギニア共和国大使硫黄島来島	ウスマントロ・ティアム大使夫妻来島。
	10月	MBC賞受賞	ジャンベによる地域振興が評価される。
平成17年	5月	県知事と語ろう会硫黄島で開催	伊藤祐一郎知事村内(3島)視察。
	10月	村長栗原正氏死去	
	11月	片泊地区携帯電話鉄塔建設事業	鉄塔高さ15m、事業費5200万円。
平成18年	2月	公的個人認証	サービス開始。
	3月	漁業体験みしまII建造	8.5t。25ノット。
	〃	新焼酎・無垢の香り「みしま村」製造	5合瓶1000本。
	〃	新焼酎「みしま村」販売	5合瓶2,000本を販売。昨年の2倍。
	4月	子牛出荷年間売上	1億5千万円突破。
	〃	みしま村子育て広場「野いちご」開園	黒島の未就学児18名(12世帯)が入園。
	〃	ジャンベ留学	2年目がスタート。
	〃	大名筍PR	山形屋にて初の試食販売会を実施。
	7月	AED導入	AED講習も各地区で実施。
	8月	三島村昆虫保護条例制定	ミシマイオウノコギリクワガタ、クロシマノコギリクワガタ保護のため。
	〃	第14回ミシマカップ	参加艇44艇。
	〃	第3回みしまジャンベスクール	受講生50名。アジアからも多く参加があった。
	〃	第1回みしま海の学校	県内の小中学生16名が参加。
	9月	全国草地畜産コンクール受賞	みしま農産(日高郷士代表)が農林水産大臣賞受賞。
	10月	第11回伝承・郷土芸能キャンペーン出演	硫黄島八朗踊り、黒島大里面踊りが出演。
	〃	黒島トレッキングツアー開催	2泊3日、ヤグラ岳歩道から林道黒島中央線まで約10km、15名参加。

年	月	主要件名	説明
平成19年	〃	「夏の祭典」金賞受賞	第41回鹿児島県中学校音楽コンクールにて中学生9名が参加。
平成20年	4月	地域づくり総務大臣表彰	
	5月	大名たけのこ東京市場に初出荷	高品質で人気を博す。
	6月	待望の硫黄島駐在所完成	硫黄島駐在所が硫黄島港前に設置される。
	8月	第15回ミシマカップ	参加艇51艇。
平成21年	4月	三島村新能「俊寛」・狂言「柿三伏」上演	硫黄島江良部崎ふもとの特設舞台上で上演。
	7月	第1回みしまジャンベウォーク	県内外から6組14名が参加。親子参加の体験型観光ツアー。
	〃	黒島一枕崎間試験運航(2年目)	日食に合わせたワンデークルーズツアーに108名、「さつま黒潮きばらん海」に合わせた枕崎観光ツアーに32名が参加。
	8月	三島村ジャンベ交流15周年記念フェスティバル	ママディ来村15周年を記念して、東京と鹿児島で開催。
平成22年	2月	三島村フェスティバル	三島村「知ろう・行こう」大作戦事業。ジャンベ、特産品、考古学など様々な研究発表や座談会などが開催された。
	5月	三島村役場リニューアル	役場庁舎の改造に伴い、外壁の色を緑色に、ひさしを黄色に塗り替えた。
	10月	鹿児島大学国際島嶼教育センター設置	記念式典とシンポジウム開催。
平成23年	3月	ブロードバンド開通	愛称「ミシマデネット」
	5月	黒島の自然が国指定天然記念物に	「薩摩黒島の森林植物群落」が国指定天然記念物に登録。
	4月	大名竹林オーナー制度開始	竹林の管理や収穫を通じた交流の増加を期待。村内から11区画、村外から10区画、合計21区画の応募があった。
	7月	第16回ミシマカップ	3年ぶり開催。34艇参加。
	9月	黒島平家城跡で発掘調査開始	鹿児島国際大学の調査チーム18名が、平安～鎌倉時代の遺物・遺構の発見などの成果をあげた。
	10月	三島村歌舞伎「俊寛」上演	硫黄島の長浜海岸で15年ぶりに上演。中村勘九郎氏が350名の観衆を魅了した。
	12月	ドクターヘリ運航開始	県本土・甌島・熊毛地域・三島村・十島村(一部)が対象。
平成24年	3月	黒島のサワガニが新種に	鹿児島大学鈴木教授の研究で新種と明らかになり、「ミシマサワガニ」と名付けられた。
	4月	遠隔医療システム&遠隔見守りシステム導入	診療・各種相談・保健指導などに活用。
	〃	竹島へき地集会所完成	集会所、ステージ、図書室などを備え、学校行事や地域行事での活用が期待される。
	7月	村営定期船「みしま」で枕崎漁港発着便運航	昨年までの3年間の実証運航に引き続き実施。7月～10月で計16便運航。
	〃	第17回ミシマカップ	25艇参加も、弱風のためノーレースに。
	10月	第2回アイルランドトレイル2Days黒島	前回の倍以上の61名が参加。海拔約4mから高低差約476m、黒島の自然を満喫しながら駆け抜けた。
	11月	みしまジェンベフェスティバル開催	島おこしにつなげようと、昨年に引き続き南埠頭倉庫で開催。3時間のライブに特産品コーナーも好評だった。
平成25年	4月	ミシマデネット有料化	月額3,000円。
	〃	穴之浜温泉に展望所完成	
	〃	黒島の盆踊りが県指定文化財に登録	大里盆踊り・片泊盆踊りの2つが無形文化財として新たに登録。
	7月	戸籍総合システム運用開始	住民サービスの向上と戸籍管理事務の効率化を図る。
	8月	第18回ミシマカップ	参加艇29艇。
	11月	みしまとしま海道フェスタ	マルヤガーデンズにて、特産品販売やパネル展、ジェンベ体験やトークイベントを開催。
平成26年	3月	竹島で新種発見	光合成もせず花も咲かせない極めて珍しいラン「タケシマヤツシロラン」が新種認定。
	〃	稲村岳登山道完成	昨年10月から整備し、山頂までの登山道が完成。
	5月	硫黄島につばき園が開園	未就学児が増えたことを機に三島村総合体育館内に開園し、園児7名が入園。
	8月	第19回ミシマカップ	参加艇28艇。
	11月	第63回おはら祭りに初参加	三島村踊り連として島民や出身者、役員職員の総勢20名が初参加。
平成27年	4月	旅客便就航開始	鹿児島空港～薩摩硫黄島
	8月	第20回ミシマカップ	参加艇36艇。
	9月	日本ジオパークに認定	「三島村・鬼界カルデラジオパーク」認定。
	11月	日本ジャンベフェスティバルinみしま	(第30回国民文化祭鹿児島2015)
平成28年	10月	フェリーみしま週4便に増便	往來の利便性が向上する。
	〃	第6回ジャンベフェスティバル開催	南埠頭フェリーみしま待合所で開催し10組が出演。
平成29年	1月	硫黄島地区会が地球市民賞受賞	アフリカの太鼓「ジャンベ」を通じて国際交流・地域活性化に取り組んできたことが評価された。
	8月	黒島 体育館完成	
	〃	第21回ミシマカップ	参加艇27艇。
	〃	島cafeカルデラハウス オープン	硫黄島に村内発のカフェがオープン。
平成30年	6月	ギニア共和国のホストタウンに登録・認定	
	8月	第22回ミシマカップ	参加艇25艇。
	9月	黒島に「みしま焼酎無垢の蔵」完成	全国でも珍しい村営の焼酎蔵。
	11月	メンドン ユネスコ無形文化遺産に登録	「薩摩硫黄島のメンドン」ユネスコ無形文化遺産に登録
令和元年	7月	第23回ミシマカップ	参加艇28艇。
令和2年	3月	ふるさと祭り2020 in 東京ドーム	全国10の離島と出展。
	5月	新船フェリーみしま就航	最大定員250名。
	11月	みしまジャンベスクールリニューアルオープン	休館していたが新装オープン。
令和3年	5月	天皇皇后両陛下 子供たちとオンライン交流	天皇皇后両陛下と竹島学園の子供たちがオンライン交流。
	6月	ママディ・ケイタ氏逝去	享年71歳。
	8月	日本郵便株式会社と包括連携協定を締結	地域見守り活動、道路損傷の情報提供、不法投棄の情報提供、防災協定など。
	10月	村内初 鉄筋コンクリートの村営住宅完成	
	12月	三島村ファンクラブ ミシマスキ誕生	三島村を好きな人が集い、三島村とつながること、そして三島村の今を伝えることを目的に設立した村のファンクラブ。
令和4年	3月	日本ジオパークに再認定	「三島村・鬼界カルデラジオパーク」再認定。
	4月	村内初 硫黄島に給油所がオープン	取扱油種はガソリン・軽油・灯油の3種類。営業日は週2日。
	11月	ママディ・ケイタメモリアルイベント開催	硫黄島にて3日間開催。村内外から280名が参加した。

伝統文化行事

島名	月日	名称	概要
竹島	旧正月12・22日	馬方踊り	古来、疱瘡で死ぬ人が多く寛政5年は特にひどかった。そのため、疱瘡の神を和らげて疱瘡を流行らせないように、翌6年から本踊りを奉納したと言われている。踊りは聖神社境内で拝殿正面に踊場を設けて踊られる。当日大夫の家に祀られているお伊勢様を聖神社の小さな祠に移す。このとき、袴はかま姿で御幣を捧げた大夫が先頭に立ち、供物を持つ社家、東西棒をもった旦那、すそ模様陣羽織をきたジジヤメ(歌い手)白い浴衣に博多帯を締めて背に脇差を差した踊子2人、着物に刺織を着てオハグロをつけ化粧をした踊子数人が後に続く。踊りは前述の婦人が踊る。「馬万踊り」は旦那が、「めでたい」は踊り子総出、「神はお伊勢」は4人で踊る。
竹島	8月15日	盆踊り	1日7月14日、15日の盆の夜、男だけで寺と新盆の家々を浴衣姿で踊って回る。
竹島	旧8月1・2日	八朔踊り	8月踊りとも豊祭踊りともいう。1・2日の両日にかけて聖神社、ガラン殿、大夫家、旧庄屋家を太郎御前様の歌を歌い踊って回る。花笠をつけた鉦打1人に小太鼓を胸に抱いた踊子15人くらいで踊る。最近では別に踊っていたコレラ踊りも一緒に踊るようになった。八朔踊りの時、高面という面をつけ、全身1・2重の蓑をまとった青年たちが、子供たちを追いかけたり、好きな娘を家の中まで追い込んだりしたが、今は、神社で太鼓踊りについて回る。
硫黄島	旧8月1・2日	八朔踊り(太鼓踊り)	硫黄大権現、北山権現、若宮様、菊池神、モロコシ神のお祭り。この祭りは大夫がお神楽を奉ずるのみである。神前でお神楽が終わってから踊りに移る。青年が太鼓踊りを硫黄大権現に奉納する。人々は業を休んで参詣し社前でこれを見学する。踊る人の服装は短い浴衣にバッチを穿き角帯しめ脚半をつける。頭は後ろ鉢巻をする。足は素足で背には高い矢幡を背負い胸脅に太鼓を抱いている。鉦打つ人だけ赤澤をかける。歌を歌うのは鉦を打つ人だけである。太鼓を打つ人は20~30歳くらいの青年で10人。鉦打つ人は50歳くらいの初老の人2人である。八朔踊りの時高面という面をつけ全身に蓑をまとった「メン」(青年たち)が、神社で太鼓踊り入っていったり、見物人を追い掛け回して暴れる。
硫黄島	8月15日	柱松	枯竹を伐ってきて俊寛燈籠(基部5尺、先端に従って細く全長9尋3尺)を作って海岸の浜に立てる。竹の束の松明で頂上は笠を逆さまにした形で開いている。青年多数で杉丸太などで四方八方から支柱を付けながら高く垂直に立てる。やがて、宵となり定刻に大夫の祈禱の後、青年たちはコエ松材を削った小さい松明に火をつけて燈籠の笠の開いたところをめがけて投げ上げる。うまく載ると枯竹に燃え移り猛烈な火勢で燃え盛る。こうして、俊寛様の霊を慰める。巨火は益々勢いづいて次第に下万に燃え下がる。実に壮観で遠く口永良部島からも望見し得るといふ。この燈籠の由来は、俊寛僧都在世の頃、7月15日の夜には火をたいて島に異変の無いように神仏を祀られたことに習ったもので、この燈籠を燃やさないといふ何か異変があるといふ伝えている。夜は盆踊りがある。
硫黄島	旧9月10・11日	9月踊り(奉納踊り)	婦人たちが硫黄大権現の社前で踊る。以前は北山権現若宮様、俊寛様でも奉納された。出場の婦人たちは花笠、杖、扇などを持って舞踊するので「笠踊り」ともいう。参加するのは大抵若い婦人である。服装は先ず髪から異なっており、中古の都風に結び、衣装は美しく着飾る。多くは友禅の美しい長袖に帯を胸高に結び、足は白足袋に表付きの下駄をはく。3組あつてかわるがわる1組が中央にでて踊る。踊る組は一斉に、或いは2列に分かれて、問答式に或いは交互に立ったり低くなったりして歌いながら踊る。踊らぬ組は幕の中に休みながら見学する。わが国固有の舞踊が絶海の孤島に残っていることは興味深い。
黒島(大里)	旧8月1・2日	黒島面踊り	数十人が半裸にひとしいボロをまとい縄の帯を締め頭にはシュロの皮をかぶり、その上に鬼、ヒョットコ、オカメ、河重などの面をかぶる。面は粘土で作られ頭にかぶる籠は竹で輪を作りこれに紙を張ったものである。顔や手足など見えるところは墨かヘグロをぬる。手に荒削りのスリコギとシャモジをもち腰にひょうたんをぶらさげる。はじめT字形になって出てくる。はいながら「ヒョウヒョウ」と叫ぶ。やがて2列になって歌に合わせて踊る。一通りすると今度は向き合って踊り、交互に1人ずつ中央に出て踊る。あとは入り乱れて面踊りの歌にあわせ面白おかしく踊る。手にもつスリコギとシャモジ、それにひょうたんは生産を表し、子孫繁栄と五穀豊作を祈る。南方伝来の匂いをもつ踊りである。
黒島(大里)	8月15日	盆踊り	毎年、旧暦7月15日のお盆に黒尾神社境内で、旧暦8月1日は八朔踊りとして大夫宅で、古くから踊り継がれていた。江戸時代半ば一時中断していたが、黒島にコレラが流行し多くの死人が出た。このとき巫女の「コレラの流行は昔から神々に奉納していた踊りをしないための祟りである」と占ったので、踊りを復興し、黒尾神社に奉納した。長刀踊りは雅楽の舞で見られるような優雅さがあり、歌詞も古く難解な詞も多いが色歌で掛言葉が多く、踵を先に地面につける踊り方は南方的な古い踊りの型ではないかといわれている。弓矢踊り、太鼓踊りは江戸初期における薩摩の戦勝を祝うための勇壮な踊りで、軍記物の舞踊化に特色がある。面踊りは子孫繁栄と五穀の実り、生産を祈る踊りで手にもつスリコギとシャモジ、腰のひょうたんは共に生産と性器を意味している。串い踊り、大名行列、相撲踊りなども踊られる。
黒島(片泊)	8月15日	盆踊り(太鼓踊り)	始めに男の笠踊りが神社で踊られる。これを「ばばならし」といっている。神の前の馬場で踊られるからである。これがすまない太鼓踊りは出来ないといわれている。「ばばならし」は供養踊りの時と同じ人が踊る。「ばばならし」のあと「堂の前」の下に集まりそこで杯をいただき支度をして太鼓踊りになる。太鼓踊りの構成は「カネ」「ナカダイコ」「ジュウテ」「ヘヤ」からなる。「カネ」は2人で女装をし、帯は太鼓に結ぶ。頭には花笠をかぶり草履をはく。「カネ」にはオオガネとコガネがあり、紐を手に巻いて下げているが踊りのときは、カネの裏側に4本指を入れて手のひらに載せて打つ。カネを叩く棒は「シメ」といい桜、桃などの柔らかい木で作る。「ナカダイコ」は1人で紋付、袴に草履を屈み直径30センチの太鼓を胸にだき響をかける。両手に木のブチを持つ。背中には「く」の字型に曲がった芭蕉の葉のような幅広の矢幡を背負い鉢巻をしている。「ジュウテ」は8人で踊り衣装を着て手拭いを頭にかけて垂らし、紙製のヘイを手に持っている。「ヘヤ」も8人で浴衣に横鉢巻、わらじをはいて直径40センチの太鼓を胸にいだく。ブチは人差し指と中指にはさんで踊りながら太鼓をうつ。また、細長い竹に三角の小旗のような紙を3センチ間隔ぐらいにつけた矢旗3本をカレコのように組んで背負っている。年齢により役が決まっている。笠踊り、供養踊り、疱瘡踊りなどが一緒に踊られる。
黒島(片泊)	旧9月14日	疱瘡踊り(9月踊り)	黒尾神社境内の神前に祭壇を設ける。祭壇には御幣、お神酒、花米、白餅などを供える。踊場にはムシロを敷き詰め、祭壇に向かって左側こ立ボコを立て船の帆で壁を作る。踊る人は、宮ガラス2人、踊り手の若組、年寄組で大夫の家で踊り衣装の準備をしてから黒尾神社に行き祭りが始まる。まず、神前で大夫が疱瘡の祈願を行い、その後だしの若組が「思い立ち」や「高きや」を踊る。若組が終わると年寄組が「めでたい」を踊る。踊り衣装は若組は昔の踊りの着物を着るが年寄組は女用踊いベンジョウ(踊着物)を着る。



- 凡例
- ▲ キャンプ場
 - 釣り場
 - ☁ 海水浴場
 - ♨ 温泉